

令和元年度（2019年度）

自己評価報告書

学校法人 福岡保健学院
福岡和白リハビリテーション学院

本報告書は、学校法人福岡保健学院 福岡和白リハビリテーション学院の自己評価結果を記したものである。

令和2年7月31日

学院長 宮崎 澄雄

学校評価実施責任者

副学院長 田川 秀明

1. 自己評価の概要と実施状況

1) 自己評価の目的、方針

- ① 教職員が自己評価を行う機会を設け、適切な学生教育ならびに学校運営に関して、自己点検の機会とする。
- ② 学校関係者評価において、自己評価の妥当性を確認し、学生教育や学校運営についての客観性・透明性を高める。
- ③ 自己評価ならびに学校関係者評価により、本校の学校運営・教育活動における課題を明確にし、その意見を参考に学校運営の改善を図る。
- ④ 自己評価は本校の学校評価実施規程に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」「学校関係者評価の項目」の内容に応じて実施する。

2) 自己評価方法

令和元年度の教育活動、学校運営の全般について、項目Ⅰ～項目Ⅹの内容について、教職員個人による自己評価を行い、集約した結果も参照して自己評価委員会にて自己評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性についての十分な検討を行い、学校関係者評価結果を含めて、十分な学校評価を行う。

2. 自己評価の内容

1) 評価基準

自己評価、学校関係者評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による 4 段階の評価基準にて実施する。

- S : 十分に達成している。(達成度が高い)
- A : 達成している。(概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
- B : 達成がやや不十分である。(若干の改善を要する)
- C : 達成が不十分である。(不適合がある、明らかに改善を要する)

2) 自己評価の内容

- 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
- 項目Ⅱ 学校運営
- 項目Ⅲ 教育活動
- 項目Ⅳ 学修成果
- 項目Ⅴ 学生支援
- 項目Ⅵ 教育環境
- 項目Ⅶ 学生の受け入れ
- 項目Ⅷ 財務
- 項目Ⅷ 法令等の遵守
- 項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

福岡保健学院の建学の理念である「人間愛と自己実現」を掲げ、社会に貢献できる医療人の育成を目指した教育活動を行っている。本学院では「手に技術 頭に知識 心に愛を」を教育理念に掲げ、学生と教職員・地域が一体となり教育を実践している。このことは、講師会議や臨床実習指導者会議において関係者に周知している。また、教育理念・目的・目標、人材育成像については、学生便覧・シラバスへの掲載及び学内掲示を行っている。

学生・保護者に対しては入学時オリエンテーションや保護者説明会で説明し理解を得よう努めている。

授業へのタブレット導入についてもアンケート調査等行い、改善しながら効率を高める努力をしている。

課題

教育理念の周知

改善に向けた方向性、方策

HP での開示および募集要項への記載を行っている。

入学生に対しては、年 2 回、始業式・終業式時に周知している。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価: S

■コメント

特になし

小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

小項目Ⅰ-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

項目Ⅱ 学校運営

総括

毎年事業計画を作成し、法人理事会の決済を受け承認される。

運営会議、学科会議のほかに広報入試・国家試験・教育課程・実習などの委員会を定期的継続的に実施し、年度ごとに目標を設定し、適正な学事運営の実施に努めている。

学生情報システムは最新の情報が蓄積され、システムメンテナンスやセキュリティも管理されており、学生への情報伝達の効率化ができています。

課題

特になし

改善に向けた方向性、方策

特になし

小項目Ⅱ-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

小項目Ⅱ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

小項目Ⅱ-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

項目Ⅲ 教育活動

総括

教育理念に沿った教育課程の編成と実施を行っている。

毎年講師及び実習指導者の意見を頂き、各科目の到達レベルの設定・教授内容・教材などの検討を行っている。実践的な職業教育の視点に立った教育方法に関しては、医療・福祉施設の協力のもと段階的な実習を取り入れている。

授業評価は、授業終了後に授業評価アンケートを実施しており、同法人で理学療法士・作業療法士を養成する他校とアンケート結果を分析し問題の共有を図っている。

教員間でも授業評価を行い、授業方法の問題を分析し、授業方法の改善に努めている。

国家資格取得に向けた授業計画立案と見直しを行っている。

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するため研修会への参加や法人開催の学術研究発表会、教員研修会など各種学会への参加を行っており、教員の指導力育成や資質向上のための取り組みを行っている。

課題

感染症流行時の対策

改善に向けた方向性、方策

感染症対策での対応として4~5月は課題での対応を主体に遠隔授業を予定。分散登校、対面授業と遠隔授業の併用など試験的に実施する。

小項目Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

小項目Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

小項目 Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

小項目 Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: S

■コメント

特になし

小項目 Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

項目Ⅳ 学修成果

総括

就職内定率は100%を達成できている。

国家試験の合格率も全国平均よりも高い結果となっている。

初年次教育や就学支援など学習面での支援と担任による学生の日々の状況把握や声掛け、面談実施やスクールカウンセラーへの個別相談などにより退学率の低減に取り組んでいる。進級率: PT 昼間コース 1年(98%)2年(86%)3年(84%)PT 夜間コース 1.2.3年(100%)4年(75%)OT 学科 1年(95%)2年(95%)3年(80%)

在校生の社会的な活躍を本人からの報告により、活躍をホームページに掲載している。今後はボランティアなどの募集や活動状況も把握し、ホームページなどで掲載に努めていきたい。

課題

志望度の高い就職先への内定率の把握

改善に向けた方向性、方策

作業療法学科は、全体の9割が第1志望で年内に内定している。

理学療法学科は、第1希望8割、第二・第三希望2割で内定している。

小項目 Ⅳ-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: S

■コメント

特になし

小項目 Ⅳ-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

小項目 Ⅳ-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: S

■コメント

リハビリテーション評価機構によると、大学の進学率が80%、専門学校の進級率が45%ということから「S」と評価した。

小項目 Ⅳ-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

項目Ⅴ 学生支援

総括

進路・就職に関する支援体制として、求人票のパソコン閲覧システム及び学生WEBによる新着情報の伝達と4校合同就職説明会と学内の就職説明会を開催し就職活動の指導を行っている。また、個別の面接指導や履歴書の書き方の指導を行っている。

学生相談に関しては、担任制度を取り定期的な面談及び必要に応じた面談を実施している。また、心理的問題を抱える学生に対してはカウンセラーと連携して問題解決に当たっている。カウンセラーは月1～2回の予約制で面談を実施している。

問題が生じた場合は運営会議を開催し協議を行い、その改善に努めている。学生を危険から守るため、交通安全講習、薬物乱用防止講習やポスター掲示、ホームルームでの注意喚起などを実施している。

学年ごとに保護者オリエンテーションを開催し学生の学習状況の周知を図るとともに、遅刻欠席や学業不振の学生に関して保護者との面談をその都度実施している。

校内ガイダンスや学校見学会などを行い、高校・高等専修学校等との連携に取り組んでいる。

奨学金制度や修学支援制度などの制度を整えている。また、災害時支援制度も整備されている。

課題

心理的問題を抱える学生の支援

改善に向けた方向性、方策

現在カウンセラーは月1回程度になっているが、必要があればカウンセラー来校頻度を増やしていく。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

特になし

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

特になし

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: S

■コメント

特になし

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

項目VI 教育環境

総括

施設・設備・機器は設置基準及び関連法規に適合しており、必要に応じて新たな教材を整備できるよう点検を行っている。

新たな教具の導入や、破損教材の買い替えに着手している。

臨床実習については、実習指導教員が週3～4回臨床実習病院に行き、指導者との情報交換や学生指導を実施する体制をとっており、安心して実習を行える環境となっている。

防災組織を作成し年1回の避難訓練と定期的に消防設備点検を実施している。

課題

職業イメージが付きやすい教育環境の整備

改善に向けた方向性、方策

1年次の理学療法・作業療法概論的な授業の中で提示している。

できるだけ学生の職業イメージが付きやすいように、1年次の授業の中で臨床のセラピストの方を講義に招いて現場の話をしていただく機会を取り入れていきたい。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: S

■コメント

特になし

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

項目VII 学生の受け入れ、募集

総括

進路案内において学院の情報提供を適切に行っている。また入学後にも進路担当者への情報提供を行っている。

資格取得や就職状況などをパンフレットやホームページ公開しており、昼間コースに関しては早期に定員充足に達している。

課題

高校訪問・高校でのガイダンスの実施状況周知

改善に向けた方向性、方策

高校ガイダンスは、年間 38 回実施している。

当学院内での体験学習実施は、筑紫台高校、精華女子高校、城東高校の 3 校で実施している。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: S

■コメント

特になし

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

項目VIII 財務

総括

毎年、事業計画に基づき予算を作成している。

財務は法人本部と学院の財務の 2 重体制をとっており、学院の財務体制管理が行われている。また、決算及び予算について理事会で承認されており、会計監査は適正に実施されている。

課題

適正に管理されている為、特になし

改善に向けた方向性、方策

特になし

小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

項目Ⅸ 法令等の遵守

総括

法令遵守については法人全体で取り組み、本学院「学校養成所施設認定規則」に基づく報告を毎年実施し、法令や設置基準を遵守している。

個人情報保護法に関しては法人全体で規定を設けており、教職員及び講師、学生が厳守すべき事項が定められている。

臨床実習でも学生の個人情報保護法については、SNSの取り扱いに関しても指導を徹底している。

課題

特になし

改善に向けた方向性、方策

特になし

小項目 Ⅸ-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

小項目 Ⅸ-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

項目Ⅹ 社会貢献・地域貢献

総括

学校施設は、理学療法士協会、作業療法士協会主催の研修や、臨床実習施設等が実施する研修等に活用されている。また、次年度以降はカリキュラムの中にボランティア活動も位置付けられている。

学生ボランティアに関しては、学内掲示板に掲示やホームルームでの情報提供を行い、地域の障がい者施設・高齢者施設・老人会などへのボランティア参加を奨励している。

課題

学院周辺でのボランティア活動の実施

改善に向けた方向性、方策

学院周辺でのボランティア活動については現状実施できていない。

次年度より、ボランティアに関する講義内容を導入し、内容も検討中である。

自然災害への備え、危機管理能力、救急救命などをカリキュラムに取り入れ演習を実施予定。

小項目 Ⅹ-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

小項目 Ⅹ-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし